

A. より多くの参加者を募る・担い手を増やす	
素案1	何の制度にも乗っかっていない、報酬も出ない。だけど、やりたいがためにやっている人が増えているので、 <u>何をしたら担い手が増えるのかは、最近始めた人に聞いてみる</u> 。何故やり始めたのか？ここに来てるのか？などを <u>参加者、担い手から聞いてみる</u>
素案2	地域福祉に関心を持って頂くようなイベントを企画する。開催にあたっては主催者側だけで運営するのではなく、 <u>より多くの参画者に協力してもらう</u>
素案3	地域座談会のメンバーについて、現状のメンバーに加え、 <u>もっと関心を持って頂きたい人をたくさん座談会メンバーに入ってもら</u>
素案6	地域コミュニティが潰れていくのは <u>担い手不足よりも、孤立化が原因</u> ではないか。コミュニティが出会い集まるような「お祭り」を大学生がプロジェクトとして仕掛けをしていく。また、 <u>学生で社会課題を解決するための事業</u> が増えているので、その社会課題を解決する1つのアプローチとして、 <u>区が用意をするようなフィールドをつくる</u> とひとつの「お祭り」として定着するのでは
その他	「子ども110番の家」の取組が形骸化されているので、改めて協力者を募り、組織化をめざして地域の担い手になって頂く
その他	地域活動をお願いする際、いきなり役員をお願いするのではなく、例えば掲示板貼りなど小さいことからお願いして、徐々に巻き込んでいく
その他	ボランティアを増やすには具体的にこういうことをして欲しい、とかハードルが低いものを言っていくことが大事
その他	「私できへんねんけど、ここら辺できる人いない？」みたいな声かけとか、一本釣りとかすごい大事。でも、一本釣りするにはつながることが大事なので、「あそこに誰々さん、できる人いてるよ」とかというのをキャッチする
B. 子どもたちへの活躍の場の提供	
素案4	子どもたちが地域に根差す目的を担っていく点で、 <u>土曜授業などで総合防災訓練に参加</u> してもら。震災発災時は地元で通学中の中学生が活躍してくれるので <u>地域に中学生の活躍の場を創出する</u>
素案4	大人になり地域から離れてしまうのを食い止めるには、 <u>小さい頃から地域での活躍する場を提供し</u> 、地域を好きになってもらう <u>地域につなぎとめる方法を考える</u>
素案4	若者の参画が気軽にできるような <u>取組</u> をできないか、その際、参画をするだけでなく <u>企画自体を中学生ができるようなもの</u> にすることで将来成長してからも地域で活動してくれるのでは
C. 居場所の活用	
素案3	子どもたちが接待を行う子ども食堂では、子どもだけでなく高齢者も参加してくれており、 <u>いろんな方が集まれるような場</u> となっている
素案3	子ども同士のつながりが、学校だけになっていないか、 <u>地域でもつながりができるような場が必要</u> ではないか
素案3	高齢者とか、子どもだからと限定せず、 <u>いろんな人が来てもいい場所</u> にしていくこと、週ごとの居場所でもいいし、いろんな選択肢が地域の中にあればよい。 <u>担う人も支援される人も地域の中に選択肢がたくさんあることが大事</u>
D. 専門職との連携など	
その他	見守り支援システムの対象者は、災害時に地域も介護事業者も安否確認することになるのが悩みとなっている。地域の活動者と、いわゆる専門職とつなげるというテーマで何か取り組めないか
その他	つながりはあるが、継続しない・持続しない。役所にこの人を見て欲しいとか言って投げても、フィードバックがないので相互関係が築けない、ゆえに活動のモチベーションが下がるところに、専門職がきちんと介在してくれるとありがたい
その他	介護事業で働いている人は、恐らく地域雇用が多いが、自分の住む地域について知らなかったりする。そうした人が地域活動する際の残業代を出すとか支援が何かできないか